

ヘンダーソンビル 留学日記

桂高校では、昨年の8月から12月までの5カ月間、都留市の姉妹都市である米国テネシー州ヘンダーソンビル市にある国際姉妹校、ビーチ高校とヘンダーソンビル高校の2校に長期留学生2名を派遣しました。今月はそのうちの一人、谷内友和さんの感想を紹介します。

ヘンダーソンビル市での生活

桂高校2年1組 谷内友和



僕は、一九九八年八月二日から十二月三十日までアメリカのテネシー州にあるヘンダーソンビル市に行ってきました。そこは、とても自然が豊かで美しい市です。市の中心にはオールドヒッコリー湖という人造湖があり、週末には多くの人たちにぎわいます。市内では、リスやタヌキ、スカンクやシカなどたくさんの野生動物を見ることが出来ます。

僕は、ヘンダーソンビル市でも田舎のほうにあるビーチ高校に通っていました。アメリカの学校は日本の学校とはかなり違って、先生は教室にとどまり、生徒が自分の好きなクラスを取り、そのクラスへ動くという仕組みです。そのほかにも、ビーチ高校では銃の犯罪防止のため、鞆を教室には持ち込まず自分のロッカーに一日中入れておくということでした。僕はそこでは、代数学、コーラス、エレクトロニクス、ビジネスを取っていました。数学は日本と違ってとても簡単で、だいたい中学校二年生くらいの問題ばかりでした。コーラスでは歌だけではなく、ダンスなどもやっていました。クリスマスにはお金を取ってコンサートを開いたりしました。僕はピアノが得意なので主に伴奏をしていました。エレクトロニクスでは、主に電気と抵抗の関係について勉強しました。ビジネスでは前半はタイピング、後半は小切手の書き方や会社の種類など、かなり社会

に出してから役に立つことばかりでした。去年桂高校に来た人たちにも会いました。

僕のホストファミリーは六人家族で皆とても明るく、決して退屈しない家庭でした。アメリカでもやはりブレイクステーションやNINTENDO 64が流行っていて、僕も大体毎日ホストファミリーとやっていました。

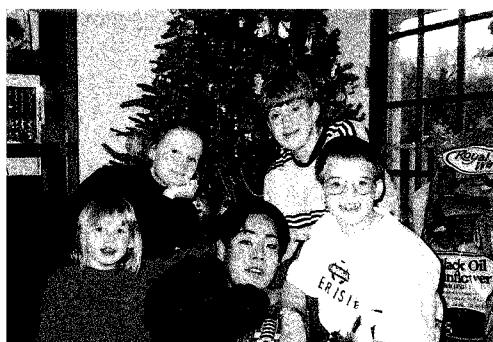
僕のホストファミリーはキリスト教で、日曜日は大体教会に行きました。教会は想像していたものとはちょっと違って、学校のようにしつかり行く時間が決まっています、最初の一時間はサンデースクールと呼ばれ、年齢別に教室が別れキリスト教について学んだりしました。その後聖堂に集まり、みんなでお祈りなどをするという形でした。それは、教会によっても少し違うようで、「一言に教会と言ってもいろいろあるんだな」と思いました。ほかにキリスト教では食事の前にお祈りをしたり、スポーツの試合の前や後にもお祈りをします。

最初にアメリカに着いたときには、本場の英語に圧倒されて周りの人たちが何を話しているかわからなく、自分もまったくといっていいほど英語が話せませんでした。しかし、ホストファミリーや友達がゆっくり話してくれるので、少しずつ理解できるようになりました。

僕のアメリカでの一番の思い出

は、クリスマスです。日本とはスケールが違い、町中がクリスマスライトにあふれ、クリスマスパレードも開かれました。僕は、アメリカでは、クリスマスにはほとんどの家族が教会に行くと思っていきましたが、そうでもなく、家族で映画に行ったり、どこかに遊びに行ったりしているようです。各家庭では、クリスマスツリーの下に数え切れないほどのプレゼントを置きます。それぞれ二十から三十のプレゼントを貰うことが出来ます。僕もたくさんプレゼントを貰えました。

今回の留学には、両親や先生方をはじめ、たくさんの方の協力がありました。今回協力してくれた方々に感謝して、僕の留学報告としたいと思います。



ホストファミリーと「はいチーズ」